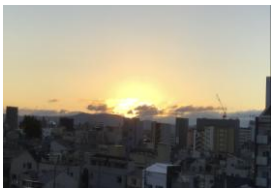
今日から９月だ

2022 年もあと 3 分の 1 を残すだけだ。現役のころは大学の講義や夏休みなど、1 年の「区切り」があったが、今は時がただ流れ去るばかり。今年の 3 分の 2 をどう過ごしてきたか、自分なりに「区切り」をつけてみたい。



写真は元旦朝 7 時 17 分の日の出。生駒山あたりを定点観測して、写真を撮り続けている。今年もコロナ禍に振り回されてきた。これで 2 年半になる。

高齢ながら毎日のように、満員の地下鉄に乗り「外出」してきたが、運良くコロナに感染せずに過ごしてきた。これまでワクチンを 2 回接種（通算 4 回）して、ひどい副作用にも悩まされなかった。でも油断はできない。それにしても日本、とりわけ大阪のコロナ対策には重大な欠陥があると感じる。政治の貧困が医療・福祉を直撃しているのだろう。

新年早々、大阪 IR カジノ誘致の住民説明会に参加した。通り一遍の説明に腹が立ち、挙手して質問しようとしたが、時間切れに終わった。「パブリックコメント」を提出し、情報公開請求を繰り返すようになった。大阪府・市と IR 事業者との基本協定書を読み、こんな業者言いなりの IR カジノ誘致に危機感をもち、住民監査請求の請求人に加わった。

写真は 6 月 23 日の監査請求「陳述」前のテレビインタビュー、そのあとの記者会見。監査結果は「合議不調」となったが、大阪市の居直り的な「反論」に腹が立ち、夢洲 IR 差し止め訴訟の原告の一人として活動することになった。

名古屋地裁で中部空港関連開発、原告・住民側の証人として出廷したことはあったが、わが人生最初で最後の？原告として、大阪地裁の法廷にのぞむことに。

名古屋から大阪に転居して 4 年 9 ヶ月になる。ひどい「維新政治」に直面して、怒りに燃えることが多くなり、名古屋時代よりも幅広く活動するようになった。大阪で刺激と元気をもらう人と出会い、ともに活動するようになった。その一つが夢洲懇談会だ。有能な事務局長のもとで、大阪市や博覧会協会などと協議を続け、情報を発信してきた。私にとって、大阪の貴重な「居場所」となっている。それが住民訴訟の原告にもつながっていった。この歳になって、「居場所」の大切さを実感している。

9 月には、また歳を一つ重ねる。コロナ禍と猛暑により歩くことが少なくなり、足腰も弱ってきた。それ以上に心配なのが、最近、落とし物や忘れ物が多くなったことだ。先日の「敬老パス紛失」騒動には動転した。失敗をくり返さないよう肝に銘じたい。

（2022 年 9 月 1 日）